

大久保 海咲 個展

OKUBO Misaki solo exhibition

sigh to sign

KUNST ARZT では、大久保海咲の
京都初個展を開催します。
大久保海咲は、「植物」オブジェを軸に、
空間を異化するアーティストです。
2019 年の大規模なインスタレーション作品
「SONo.」では、「植物の持つ形、自由さ、強さといっ
た魅力」（アーティストの言葉）が空間に解き放た
れ、空間の固有性は排除され、どこでもない場所
性と光の調整によって、独特の時間感覚を形成し
ていました。そこには、日本人であること、女性
であることなど、カテゴライズされることに対す
る抵抗意識が奏通低音として流れています。
(KUNST ARZT 岡本光博)

* 展覧会タイトル部分の「to」は、
英語ではなくローマ字読みで to(と) と読みます。



SONo. 2019、クラフト紙、木材、ソファー

経歴

1996 年、東京生まれ、京都在住
現在 京都精華大学 芸術研究科博士前期課程芸術専攻 在籍

展覧会歴

グループ展「fermata」(2018 年、京都、アートギャラリー北野)
グループ展「SEIKAJACK」(2018 年、京都、京都精華大学ギャラリーフロール)
個展「Bloom」(2019 年、大阪、FLAT space)

2020 年 1 月 28 日 (土) から 2 月 2 日 (日)

12:00 から 18:00 月曜日休み

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都東山区三条神宮道北東角 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

kunstarzt@gmail.com

<アーティストステートメント>

社会の中での人がカテゴリーわけされることについて疑問を持ち、カテゴライズによる物事の認識について問う作品を制作をしている。大久保自身、幼少期から多国籍の人々が暮らす地域で過ごし、様々な文化混在していることが日常にあった。そういった経験から性別というカテゴリーの中では、女性であるが、自分の性を受け入れて女性らしく生きることによって疑問を持ち続けていた、昨今話題になっているmetoo 運動、フェミニズムなどを通して様々な性のあり方、人のあり方を知り、社会でのカテゴリーを抜きにした時自分とは何者なのか、カテゴリーというものはあくまでも他者に伝わる上での名前でしかないというスタンスを持っている。しかし、多くの人々がまだ自分自身が社会の中でカテゴライズされていくことへの意識は低いと感じ、作家自身も含めともに考えていける表現をしたいと考えている。



「SONo.」
2019
クラフト紙、木材



「無題」
2019
パステル



「Bloom」
2019
クラフト紙、石膏、スコップ



「Bloom」
2019
クラフト紙、石膏、スコップ